

「いいだ障がい福祉プラン 2024(飯田市障害者計画・第7期飯田市障害福祉計画・第3期飯田市障害児福祉計画)(案)」に対して
お寄せいただいたご意見と市の考え方

飯田市健康福祉部福祉課

- 1 ご意見を募集した期間 令和5年12月21日(木)から令和6年1月19日(金)まで
2 ご意見をお寄せいただいた方の人数 3人の個人
3 ご意見の数 4項目

No.	ご意見をいただいた項目	お寄せいただいたご意見	市の考え方
1	相談支援体制の整備	<p>コロナ禍以前、飯田市近隣の障害者が1ヶ月に1回さんとぴあに集まり、ピアカウンセリングを行っていた。互いの状況、気持ちの整理だったり、困り事へのロールプレイング等。</p> <p>普段、話をする機会の少ない障害者にとっては、数少ない大切な時間であった。</p> <p>是非とも再開を希望いたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 ・ピアサポーターによる相談支援やピアサポート活動は、同じような立場にある人による相互の支え合いとして、重要視されるようになってきています。 ・市では、平成19年から、ピアサポート活動を支援しています。具体的な活動として、身体障がいのあるピアサポーターによるピアカウンセリング及びピアサポーター養成講座などをさんとぴあを会場として実施してきました。この活動について、近年のコロナ禍の影響により集合型での活動は休止し、個別相談のみを行っています。 ・市が行った障がいのある方の実態調査(18歳以上)でも、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことは、「スポーツ・レクリエーション、文化芸術活動の機会が減少した」が20.6%と最も多くなっており、地域での活動や交流の場の確保は重要と認識しています。 ・お寄せいただいた意見をはじめ、障がいのある人たちのピアサポート活動に関するニーズを把握し、今後の活動の方向性について、実施機関(飯伊圏域障がい者総合支援センター)と協議してまいります。

No.	ご意見をいただいた項目	お寄せいただいたご意見	市の考え方				
2	飯田市における障がい者福祉の現状と課題 サービス提供体制の整備、居住場所の確保	<p>原案P17、4つ目の「重度の障がいがある人～がありません。」の中の「また、圏域内に自宅以外の居住場所(医療型の長期入所施設、グループホーム)がありません。」について、</p> <p>居住場所→<table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding-left: 10px;">施設入所支援(阿智温泉療護園)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>グループホーム(くれよんマイホーム エンヤ)</td> </tr> </table>は、居住場所としては在ります。</p> <p>医療型の長期入所施設→これはないですが。</p>	{	施設入所支援(阿智温泉療護園)		グループホーム(くれよんマイホーム エンヤ)	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 ・ご指摘いただきました部分につきまして、原案を次のとおり修正いたします。 ・医療的ケアが必要かつ重度障がいがある人が利用できる、生活介護及び短期入所並びに居住系サービス(施設入所支援・共同生活援助)を提供する事業所は少ない状況です。また、圏域内に医療型の長期入所施設はありません。
{	施設入所支援(阿智温泉療護園)						
	グループホーム(くれよんマイホーム エンヤ)						
No.	ご意見をいただいた項目	お寄せいただいたご意見	市の考え方				
3	教育・学校について	<p>少子化になってきているのに、現在飯田養護学校は校庭やロータリー等つぶして校舎新築中で、学校の前を通る度、心が痛みます。</p> <p>なぜ、あの狭い場所に？どうしてこの地域に分教室はできないの？</p> <p>飯田養護学校は県立なので、分教室が通常学校に実現となると、下伊那教育委員会、各教育委員会等との理解や協力が必要です。</p> <p>現在ある県内の分教室の成果に学び、通常学校で障がいのある子が学ぶことはインクルーシブにつながる一つの方法です。なぜこの地域にできないのかの原因はなんでしょうか？</p> <p>そもそも、その要望はないのですか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ・現在、飯田養護学校では今後予想される児童生徒数の増加に対応するため、教室棟の増築工事が行われており、様々な配置を検討した結果、現在の場所に設けるとお聞きしています。 ・駒ケ根市では、平成17年に全国に先駆けて副学籍制度が導入され、上伊那地区では、地域の理解を得ながら障がい児教育が進み、地域内の副学籍制度が整えられました。また、養護学校地域化の流れを受け、伊那養護学校では、平成20年に駒ケ根市立中沢小学校内に「小学部はなももの里分教室」が、平成22年に駒ケ根市立東中学校内に「中学部はなももの里分教室」が開設されました。 ・飯田市では、平成28年から居留地校交流による副学籍制度を導入し、令和4年度からは飯田市に居住する全ての養護学校の子どもたちが、地域の学校に副学籍を持ち、副学籍による交流及び共同学習ができるように整備しました。現 				

			<p>在、下伊那地区では各町村で副学籍制度の広がりを見せているもののまだすべての町村の理解を得るまでには至っておらず、飯田養護学校と協力しながら副学籍制度の広がりを推進しているところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護学校の分教室の設置については、域内の共生社会の実現に向けたインクルーシブな教育並びに障がい児教育につながるひとつであると考えますが、様々な機関(飯田養護学校、各自治体、各教育委員会、下伊那教育会等)との協議、地域としての理解及び要請、教育的ニーズの把握などが必要となります。現在のところ、そこまでは到達していないため、副学籍制度の広がりや充実に力を入れているところです。
No.	ご意見をいただいた項目	お寄せいただいたご意見	市の考え方
4	地域のつながりについて	以前に比べれば、様々取り組みが行われています。プランにあるよう地域への愛着という表現がありますが、地域のつながりが大事です。これについての現状や総括等がありますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 ・「地域のつながり」に関する具体的な現状把握及び統括には至っていませんが、基本理念を、『認め合い 支え合う 自分らしくいきいきと ともに暮らす 結いのまちづくり』とし、地域社会とのつながりが重要と考えて、計画策定を進めています。 ・計画の対象は、「障がいのある人やその家族、支援する人のみでなく、障がいのある人を取り巻く社会の全ての人が我が事として認識することが重要です。この計画は、『障がいのある人のための計画』であると同時に、障がいのある人が日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるものをなくすために、より多くの市民のみなさんにも理解して行動していただくことを目指しています」としています。 ・計画の基本的な考え方の「基本的な視点」及び計画の体系の各項目の「現状と課題」において、地域のつながりを意識した記載は次のとおりです。基本理念の実現を目指し、課題解決に向けた具体的な施策に取り組んでまいります。

			<p>以下、「いいだ障がい福祉プラン 2024」(案)より抜粋</p> <p>3 ここにいたい！ 働きたい！ 出かけたらい！</p> <p>【基本的な視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの特性上働くことが困難な人や働くことを選択しない人が、地域社会から孤立することなく、多様な形で社会とのつながりを保ち、日中の居場所が確保できるように、地域の関係機関と連携して支援します。 <p>【居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人が地域社会から孤立することなく、多様な形で社会活動に参加できるよう、つながりづくりに向けた支援が必要です。また、地域で安心して自分らしく暮らすためには、その介護にあたる家族の負担を軽減することも含め、様々な支援体制を整備・充実させていくことが重要です。 <p>4 ここで、一緒に成長しよう！</p> <p>【基本的な視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その一環として、地域で共に学び合い、互いを理解し尊重しながら育っていく中で、将来にわたって地域の仲間との温かなつながりを持ち続け、認め合って暮らせることを目指して、「副学籍による交流及び共同学習」を推進します。 <p>5 みんなが安心して暮らせるまち</p> <p>【やさしいまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが主体となって地域活動に参加できるよう、公共施設や民間施設におけるバリアフリーの推進や、バリアフリーに関しての情報収集・周知をすすめています。ハード面だけではなく、心のバリアフリーを促し、障がいのある人と障がいのない人が助け合えるつながりが重要です。 <p>・計画策定にあたり、障害者福祉分科会委員の方から次のようなご意見をいただきました。</p> <p>『相談できる人がいる』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談相手がいると安心度は高いし、満足度が高いし、地域も愛せるようになるっ
--	--	--	---

			<p>て、そんなようなアンケート結果が出ていましたが、まさにそのとおりなんです。困ったときに相談できる人がいるつながりっていうのが一番大事だって、これはもう昔からで、そういう地域をつくるためにはどうしたら良いかってことだと思います。</p>
--	--	--	--